

# 奥秩父・大滝巨木ツアーと鉄砲堰

2006年11月10日 中津川溪谷晩秋の紅葉 ちょっと肌寒い季節 晴れ  
彩の国ふれあいの森 こまどり荘 午前 9時 現地集合  
案内していただいた方 民宿中津屋 オーナー山中進氏 ガイド時間 9時~15時

中津川溪谷は奥秩父山系の三国山、十文字山を水源にし、大滝北域の旧中津川村を貫流し多くの支流を合わせ荒川に合流する溪流。

自動車では、秩父市から約1時間20分位、R140で旧大滝村に入り、落合地区で中津川を落合橋で渡ったら信号を右折、鶉平を通り滝沢ダムループ橋を渡り滝沢ダムの上に出て、中津川大橋手前の信号を右折、県道中津川線に入る。この川の源流帯を中津川林道が巡るように三国峠に登り、長野県川上村に通じている。

今日の講師、山中氏の車4WDハイエースに乗り込み、こまどり荘を出発、奥秩父巨木観察ツアーと鉄砲関体験の始まり、車中でカエデ、紅葉、鉱石などの話を聞きながら中津川溪谷最上流部の金蔵沢に案内される。

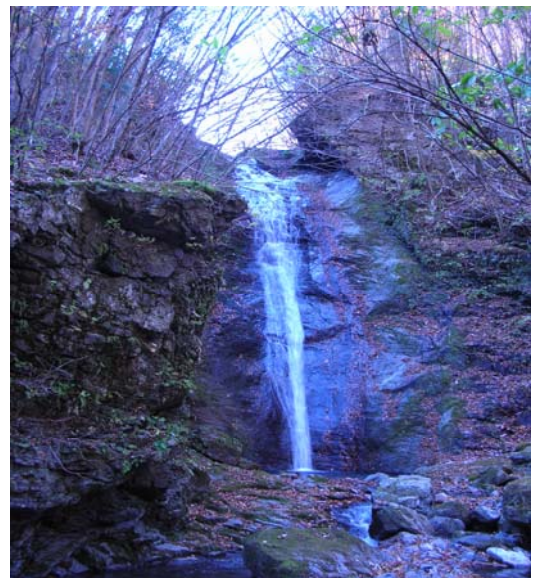
金蔵沢は、別に西沢とも呼ばれている。イワナが生息するが、魚影は濃くない。

金蔵沢の入口には車止めのクサリが張られ、沢側に「中津・西沢の大カツラ入口」という標柱があり、此処から巨木観察トレッキングの始まり。沢沿いに歩きながら講師の山中氏



から、メグスリノキ、ブナ、キハダ、ミズナラ、ミズメ（樹皮にサロメチール臭がある）、ツガ、ケヤキなど、奥秩父の原生林は針葉樹林ではなく、斜面や沢沿いの広葉樹混合林という説明を聞きながら歩いて行き秩父の滝100に選ばれている滝の前で一休みした。

ここで一休み  
秩父の滝、100  
に選ばれて  
いる。  
金蔵沢北向き  
の滝。落差約  
13m





斜面にはブナ、ミズナラやカエデ類が、  
沢沿いにはカツラ、シオジ、ケヤキなどが茂っている。



秩父のブナは、ブナ（シロブナ）とイヌブナ（クロブナ）です。  
直径2m以上、高さ数十メートル



キハダの巨木 樹皮を剥すと中はキイロ、生薬の黄檗（おうばく）抗菌作用があり、なめると強い苦味のため眠気覚ましとして知られ、薬用のほか草木染の染料としても使われる。



キハダの巨木



樹皮の内側



その後、上がり下がりを通り返し沢沿いを約 20 分登って行くと、幹回りと言うのか胴回りと言うのか 13.5m 巨大な樹が二俣に沢が合流している岩原にそびえ立っていた。

原生林の中、周りの木々が朽ち果てて倒れている中で神々しいばかりの風格を持つカツラの巨木を見上げた。



標識の傷は熊の爪あと。

この巨木観察ツアーは奥秩父の原生林の中、溪流沿いをトレッキングして、すがすがしい気持ちになり、約 2 時間位の行程で楽しく勉強になった。

続いて大山沢に向かい、鉄砲堰を再現しました。

## 鉄砲堰とは？

大正時代～昭和初期の時代、伐採した木を奥山から搬出するのに、木を組んでミニダムを造り、それを決壊させて一気に下流に流すという木材運搬技術です。

鉄砲堰は、彩の国ふれあいの森の中にある、原生の森ゾーンの大山沢につくられてあった。大山沢は奥秩父主脈の稜線にある、大山 (1,860m) 赤沢山 (1,819m) が水源である。中津川と大山沢の合流点に大山沢橋北詰に一般車通行止めのゲートがある。この奥に大山沢林道が沢沿いに伸びている。上流は谷が分岐し、二俣になっていて林道終点で広場になって休憩所がある。この上流で「原生林観察トレッキングツアー」をふれあいの森管理事務所が募集しておこなっている。大山沢には砂防堰が 10 数基もあり、昔の様に鉄砲堰を使い材木を流すことは出来なくなっている。

講師、山中氏のハイエースで金蔵沢から大山沢へ午前 11 時頃移動、車止めのゲートを開け、大山沢林道に乗り入れる。車でゆっくりと 10 分ほど登った所に、秩父市の誕生を記念して作られた鉄砲堰が現れる、2005 年 11 月 24 日に記念放流された。

今回の体験する鉄砲堰は、もっと上流にあった。

現場に着くと山中氏の指示で役割分担を決め、堰板を積む係、水もれ防止のコケを取る係、山土を取る係に分かれすぐに作業に取り掛かる。

この堰はだいぶ古く、沢の水が隙間から漏れてしまうが、そこは現在の道具、青いシートで被いかぶせる。すると沢の水は、落ち葉と共にみるみる溜まっていく、堰の高さの 80% 位溜まるのに、約 1 時間その間に昼食。川原でお湯を沸かし、ラーメンとおにぎり、大自然の中非常に美味しい。陽だまりの紅葉の中、大人の水遊び、楽しいひととき。

夏休みに子供たちや気の合う仲間達ともう一度、水遊びに来たいものだ。



「窓」と呼ばれる放水口をふさぐ堰板を「ベラ板」というそうだ。

二人のあいだに縦に長い太い柱が「ベラ棒」とよばれ、この棒が横にずれると「ベラ板」がはずれて一挙に放水される。

沢の水が落ち葉と共にみるみる溜まる。

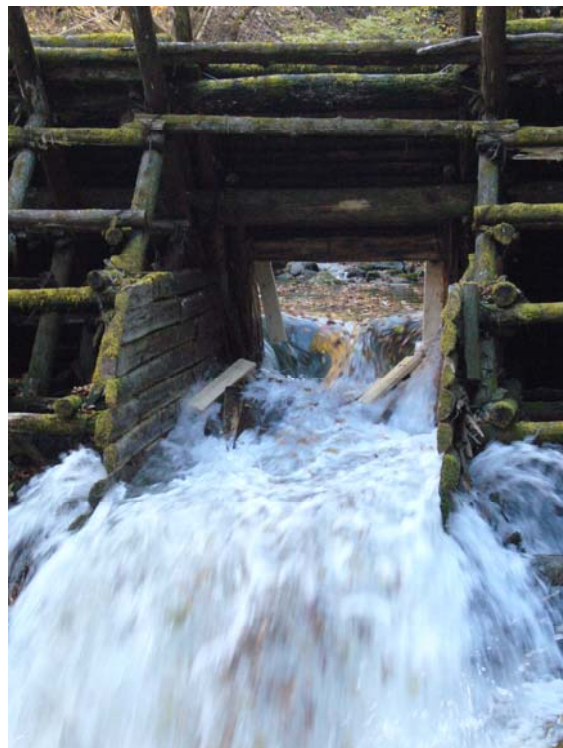
「ベラ棒」の先端にロープを取り付け横に引っ張ると放流となる。



「ベラ棒」を倒すと放水口からドドドーン。  
静かだった沢に大音響。大量の水が一気に流れ、水しぶきが上がった。  
この堰の下に、木材を置き、大量の水とともに流れ下して行くのだそうだ。



口が開いた瞬間



勢い良く流れ出す



本来ならこの堰の下に木材を  
置き、大量の水の力によって  
下流へと押し流した。